

進捗状況の概要（1ページ以内）**学内の実施体制について**

本事業の運営主体はAP委員会であり、事業担当者（学部長）を始め、基礎プログラムの「長期学外学修」、「事前学習」、「事後学習」の担当教員（8人）、発展プログラムの担当教員（3人）、AP事業専門員（2人）、学修評価委員（2人）、広報（2人）から構成され、月に1度、学長が同席して会議を開催している。また、本事業での教学上の成果を踏まえ、教育改革の具体的方針を取りまとめる大学企画調整室を設置し、大学教育改革委員会の会議で協議・報告をしている。

中心となる取組について

取り組みの中心である北遠フィールドスタディ及びダバオ市フィールドスタディの二つのプログラムにおいて充実を図っている。平成29年度の北遠フィールドスタディでは、年間を通じてフィールド先である浜松市所有の遊休施設「勝坂神楽茶屋」の営業及び耕作放棄地での農作物栽培を実現した。さらに、地域課題の取組みの一環として、児童・生徒を対象としたスタディ・ツアーを実施した。一方、ダバオ市フィールドスタディでは、ミンダナオ島の戒厳令によりフィールドへの派遣が延期となっているが、そのような現状においても、浜松とダバオ市間での関係を深化させるICT教育の実現に努力している。

取組の成果について

学修成果の可視化については、学内や地域での成果報告会を開催することで、引き続き普及に努力していく。学生のフィールド活動の報告に加えて、教職員を対象として協働学習を目的としたPBL型のアクティブ・ラーニングの授業の作り方に関する報告を実施する。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組について

本事業の北遠フィールドスタディ及びダバオ市フィールドスタディの実施に関する協定を継続することで、本事業の実施科目である「長期学外学修」「事前学習」「事後学習」も引き続き実施していく。また、本事業を継続発展させた学生団体である「やまびこチャレンジ」、「浜松インターナショナルスクール」は、本事業の基礎プログラムを経験した受講生が、全く異なる視点によるイノベティブな活動を導く推進役となっていることから、補助期間終了後も大学は引き続き支援を強化していく。

やまびこチャレンジ (<https://www.yamabiko-nlc.org>) : 基礎プログラム(8月)終了後から発展プログラム(2月)までの期間にはフィールドと関連した活動を牽引し、9月から12月まで勝坂神楽茶屋の営業を継続した(1月から3月までの冬季は路面凍結により茶屋は休業)。10月に収穫を終えた畑についても、勝坂神楽茶屋の開業期と同時期に草取り、土づくり、畝作りを続け、平成30年度のAP事業での畑作業へつなぐことができた。

浜松インターナショナルスクール (<https://www.his-ymis.org/>) : ダバオ市フィールドスタディの経験者が、平成28年度に浜松市内に定住外国人の子どもを対象に浜松インターナショナルスクールを設立した。浜松市内には、フィリピン共和国ダバオ市にルーツがある日系フィリピンの子どもの多くが在住している。ダバオ市フィールドスタディにおける日系人の子どもたちや保護者との交流を通して、子どもたちの生育や成長、その背景や現状を学んだ学生は、浜松で多文化教育の活動を発展させている。

学内外への波及効果については

AP採択校として、他大学及び地域に対して、シンポジウムを実施する。また、新聞やラジオにて、フィールドでの学生活動が取り上げられることにより、本事業を周知させることができた。